

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習 I Childcare Practice I		1年・2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	実験実習	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会的養護、社会的養護内容				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登、岡泉志のぶ、高橋登美子	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
虐待・障害・保護者の病気などの事情で児童福祉施設等に入所したり通所したりしている子どもたちと生活する中で、子どもたちの気持ちを理解するとともに、人権擁護や発達保障について施設はどのような努力を行っているのか理解する。				
授業の目標				
①保育所や幼稚園での実習及びすでに学習した保育、児童福祉施設に関する教科や知識を基礎として、児童福祉施設での保育を実践できるようにする。 ②施設における人権擁護・発達保障の努力を説明できるようにする。 ③目的意識と課題を持って実習に臨み、実習施設より努力が認められる評価をいただくようにする。				
授業の方法				
児童福祉施設等の必要性と保育の実践方法を考えながら11日間（実習時間90時間以上）の実習を行う。 施設によっては入所での実習を行う。				
学習の成果（学習成果）				
この実習を行う事で、 ①児童福祉施設等の機能と役割を知り、社会的養護の実際を踏まえた保育ができる。 ②子どもと積極的に関わり、支援すべき内容を考え実践することで、保育技術の向上に向けて努力することができる。 ③発達保障・人権擁護の理念に基づいた保育援助ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	≪保育実習の意義・内容・方法を再確認し、実習施設での実習準備をする≫			
第2回目	1、配属された実習施設の理念や支援内容を各自が調べる。			
第3回目	2、各施設についての調べに基づき、実習に向けて課題を設定する。			
第4回目	3、実習オリエンテーションを組んでいただき、諸注意を再確認する。			
第5回目	≪支援全般に参加し保育技術を習得する≫			
第6回目	1、支援の実際を理解する。			

第7回目	・施設の沿革や支援方針を知る。 の環境を知る。	・社会的養護を必要とする子どもたちの実態について知る。	・施設
第8回目	・1日の流れを知る。		
第9回目	2、支援の実際を体験し、自分の「支援観」を見出す。		
第10回目	・施設の支援方針や支援計画を理解し、準備を手伝いながら支援法を学ぶ。 準備を手伝う。	・支援のねらいを理解し、準備	
第11回目	・施設を利用する子どもたちの気持ちを理解する。 方を学ぶ。	・子どもの活動を注意深くとらえ、保育士の支援の仕	
第12回目	・発達保障・人権擁護の実際について知る。		
第13回目	3、実習反省会を開いていただき、反省・評価を含めた指導を受け、新たな課題を見つける。		
第14回目	《自分の「支援観」と向き合う》		
第15回目	・向上心を持って子どもと向き合う姿勢を再確認し、新たな課題に取り組む。		
成績評価の方法と基準			
評価の領域	割合	評価の基準	
授業参加態度	100%	実習施設におび手の評価基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可にする（5：すぐれている、4：ややすぐれている、3：普通、2：やや努力を要する、1：努力を要する）。	
レポート			
調査報告書			
小テスト			
試験			
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
佐野短期大学「保育実習の手引き」			
履修上の留意点・ルール			
保育実習指導Ⅰの授業を必ず履修し、単位取得の成績を待っていること。 保育士必修科目の必要単位が取得されていること（不可や欠時不認定の科目が多い場合は、面談の上実習延期や辞退を判断する）。 実習に臨む態度や意欲を明確に示し、実習施設に対して適切に行動できること（状況によっては実習延期や辞退も検討する）			